

イベントレポート

第10回 IPA 圧入工学セミナー in 高知 2017



2017年7月20日（木）第10回圧入工学セミナーを高知県高知市で開催し、研究者・技術者・実務者・一般聴講者等、11ヶ国から約280名の方が参加されました。

最初にシンガポール国立大学のリャン・チュンフェイ教授から、振動・騒音の規制が厳しいシンガポールでの圧入工法のメリット及び施工事例紹介がありました。続いて、株式会社技研製作所の野崎恒延様から鋼管矢板・鋼管杭の圧入技術についての解説、及びバングラデシュで施工中の事例紹介がありました。休息を挟んで、熊本大学の大谷順教授より「盛土沈下対策としての新たな鋼矢板工法の開発—PFS工法」と題し、PFS工法概要の説明と実験モデルによる解析等、その実用性と有効性についての講演がありました。最後に、公益財団法人鉄道総合技術研究所の西岡英俊様から、仮土留め用鋼矢板を本設利用したシートパイル基礎の開発経緯、更に非液状化地盤での耐震補強への有効性についての講演がありました。4篇の講演に関しては、多くの方々より好評を博しました。次回のセミナーに反映し、より有意義なセミナーを企画します。



シンガポール国立大学
リャン・チュンフェイ教授



株式会社技研製作所
野崎恒延氏



熊本大学
大谷順教授



公益財団法人
鉄道総合技術研究所
西岡英俊氏